

令和7年度 助成事業成果報告会 【要旨集】



(西印旛沼舟戸大橋 R7.09.04)

日時 令和8年1月30日(金)
場所 印旛合同庁舎 2階大会議室

主催 公益財団法人 印旛沼環境基金
《<https://www.i-kouiki.jp/imbanuma/>》



印 旛 沼 憲 章

人は昔から印旛沼とともに歩み、その恩恵と、ときには洪水のような試練をも受け、畏敬の念をもって接し、印旛沼文化とも言うべき独特の生活文化を形成してきた。印旛沼にやすらぎを覚え、心のふるさと感じることは、昔から続いてきた人と沼との緊密な関係の遺産である。

今、印旛沼を取り巻く環境は、人口の急増や生活様式の変化に伴って自然のバランスを崩しつつある。一度破壊された自然を回復することはむずかしい。さらに、私たちは、生活に、工業に、農漁業に、はかり知れないほど沼の恩恵を受けながら、ややもすれば印旛沼の存在さえ忘れがちである。

印旛沼は流域の環境と、そこに住む人々の生活を映す鏡である。今こそ、私たちは印旛沼の浄化と環境の保全に努め、沼と共に永く生きることを目指さなければならない。

そこで、印旛沼にかかわる私たちの心構えとして、ここに印旛沼憲章を定める。

印旛沼の自然と歴史を学び、親しく接しよう。

印旛沼の恩恵を心に刻み、環境にやさしい生活態度を身につけよう。

人と自然の調和をはかり、賢明で合理的な利用を心がけよう。

このかけがえのない印旛沼を永く子孫に引き継ごう。

平成6年11月25日制定

【目 次】

報告課題（団体名）

1. 印旛沼水系新川及び桑納川周辺の水質汚濁調査
（千葉英和高等学校生物研究部） 1
2. 印旛沼流域鹿島川における水源地域・水環境の変化と問題に係る環境調査の試み
（NPO 法人 環境・地理探訪クラブ） 3
3. 印旛沼流域の湧水調査と水環境の啓発活動
（NPO 法人 水環境研究所） 5
4. 印旛沼マイクロプラスチック調査
（日本大学生産工学部木村研究室） 7
5. 印旛沼流域に於ける水辺の生きもの調査 里山保全と市民啓発活動
（NPO 法人 四街道メダカの会） 9
6. 里山整備や自然観察会等を通じた里山保全・保護活動
（里山の会 ECOMO） 11
7. 鯉のぼりと散策路保全事業
（二重川に親しむ会） 13
8. カヤックを利用した印旛沼・鹿島川環境美化活動報告
（佐倉市カヌー協会）15

印旛沼水系新川及び桑納川周辺の水質汚濁調査

発表者 福井 結那 小林 彩音 久保田 希空
坂口 瑠太郎 川嶋 翔一郎 齊藤 蓮生

I 団体名 千葉英和高等学校生物研究部

- (1) 設立年月日：1987年4月10日
- (2) 構成人数：21人
- (3) 活動拠点：新川と桑納川の合流地点付近、桑納川下流

II 活動目標

新川は印旛沼水系に属し、八千代市を流域に持つ主要な河川の1つであり、千葉英和高校からも近く大変身近な存在である。私たちは、印旛沼及び新川周辺の水質調査によって汚濁源を特定し印旛沼水系の水質の改善に貢献したい。

III 今年度に計画した事業活動の具体的内容

今年度は新川と桑納川の合流地点付近と桑納川下流、桑納川のたか橋－桑橋間で桑納川に合流する津金排水路、津金排水路－桑橋間で桑納川に合流する水路（水路Bとする）と桑橋－桑納橋間で桑納川に流入する水路（水路Cとする）について調査することにした。

① 調査地点

たか橋、津金排水路と桑納川の合流地点を「地点A1」としたときの「地点A1」、（同様に水路B・水路Cについても桑納川との合流地点を「地点B1」・「地点C1」として）「地点B1」、「地点C1」、桑納橋、八千代橋、城橋の7地点（図1参照）。12月16日以降は、津金排水路の桑納川合流直前の地点を「地点A2」、A2より約700m上流の地点を「地点A3」、A3より約600m上流の地点を「地点A4」、水路Bの桑納川合流直前の地点を「地点B2」、水路Cの桑納川合流直前の地点を「地点C2」、地点C2より約200m上流の地点を「地点C3」として、図2に示す10地点を調査した。

② 調査項目

COD（化学的酸素要求量）、 $PO_4^{3-}P$ （リン酸態リン）、 NH_4^+-N （アンモニウム態窒素）、 NO_2^-N （亜硝酸態窒素）、 NO_3^-N （硝酸態窒素）（パケットテスト）

調査日

2025年 4月9日 9月1日、26日 10月28日 12月4日、16日、19日、23日

③ 調査方法

1) 採水

各地点で、橋の上から川の中央地点にガラス製採水器(250ml)を下ろし表層の水を採取した。採水・実験で使用する容器はすべて共洗いをした。従って採水は各地点2回おこない、2回目に採取した水を使用した。

2) 水質調査

各地点で採取した水についてパケットテストで調査をおこなった。

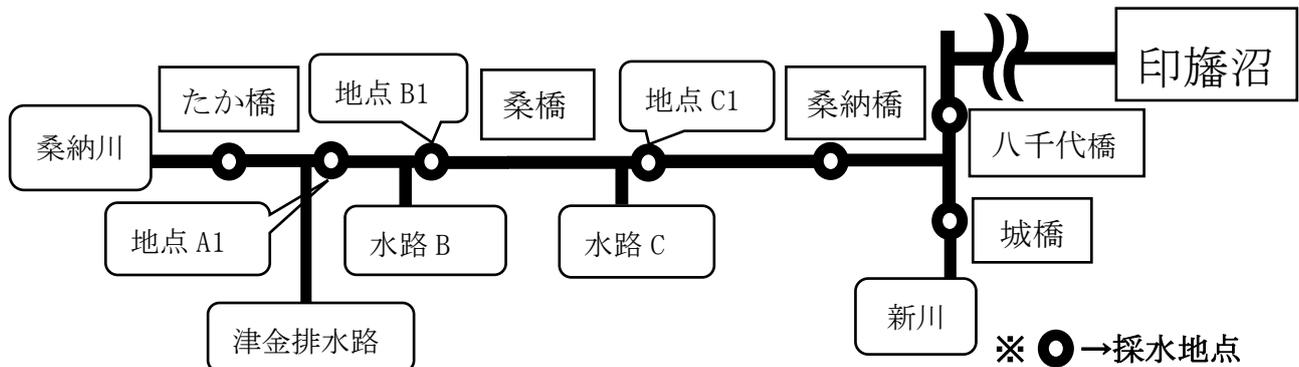


図1 調査地点の位置関係

IV 成果及び考察

図1の各調査地点におけるリン酸態リンの測定値を表1に示す。

表1 新川と桑納川の合流地点付近および桑納川下流の各調査地点の $\text{PO}_4^{3-}\text{-P}$ (mg/L)

	たか橋	地点 A1	地点 B1	地点 C1	桑納橋	八千代橋	城橋
4月9日	0.5	0.5	0.5	0.2	0.5	0.05	0.02
9月1日	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.02	0.02
9月26日	0.5	0.2	0.5	0.05	0.02	0.02	0.02
10月28日	0.2	0.02	0.02	0.2	0.02	0.02	0.2
12月4日	0.2	0.5	0.2	0.2	0.2	0.05	0.02

たか橋から桑納橋で高い値を示す傾向にあった。そのため、桑納川へつながる水路が汚濁源なのではないかと考え、津金排水路、水路 B、水路 C に注目して追加調査をおこなった。(図2参照)

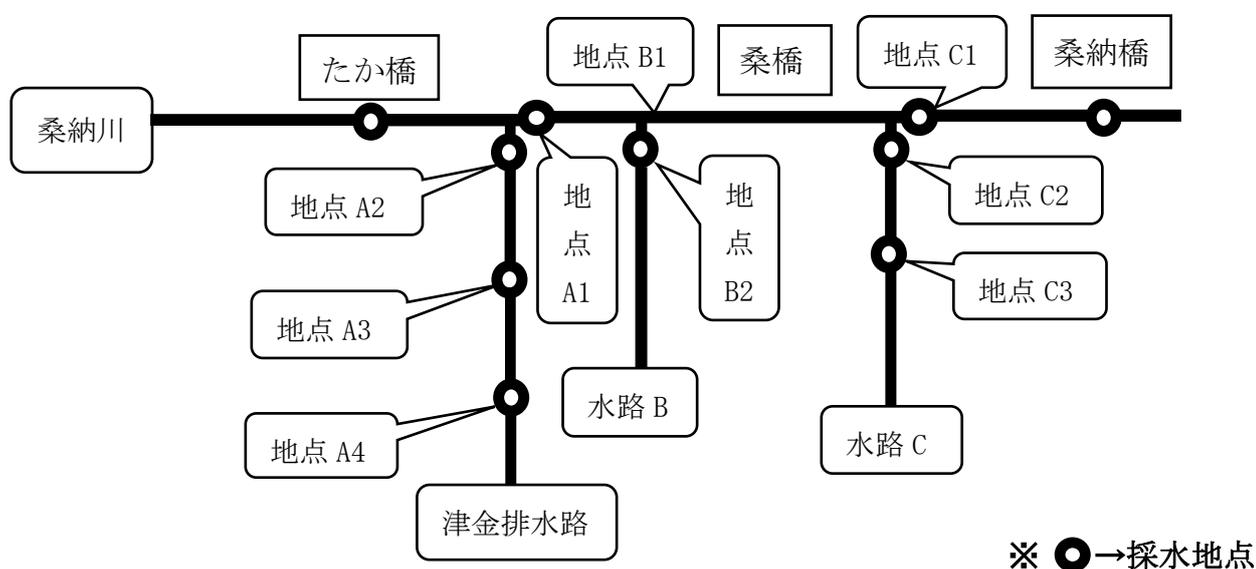


図2 桑納川下流および3つの水路に注目した調査地点

表2 桑納川下流と3つの水路の各調査地点の $\text{PO}_4^{3-}\text{-P}$ (mg/L)

	たか橋	地点 A4	地点 A3	地点 A2	地点 A1	地点 B2	地点 C3	地点 C2	地点 C1	桑納橋
12月16日	0.5	/	0.5	0.5	0.5	0.05	0.1	0.02	0.2	0.2
12月19日	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0	0.05	0.02	0.02	0.02	0.5
12月23日	0.2	1.0	1.0	0.5	0.2	0.02	/	0.02	/	0.2

リン酸態リンについて、12月16日に地点 A3、A2、A1 で高い値を示す傾向にあったのに対し、地点 B2、C3、C2 は低い値を示す傾向にあった。これを踏まえて、津金排水路により注目して、地点 A3 よりもさらに上流の地点 A4 も調査対象に加えた。

津金排水路を中心とした調査の結果、地点 A4、A3、A2 は高い値を示した。このことから、この付近の住宅地から流れ出した生活排水や工場から流れ出した工業排水、さらに水路に沿って位置する果樹園と畑から溶け出した肥料などが汚濁の要因であることが可能性として挙げられる。

V 今後の活動方針

今回追加調査をした津金排水路をさらに調べて汚濁源を特定し、新川及び桑納川の水質改善に貢献していきたい。

印旛沼流域鹿島川における 水源地域・水環境の変化と問題に係る環境調査の試み

発表者 松尾 宏

I 団体名 NPO 法人 環境・地理探訪クラブ

- (1) 設立年月日：2017年10月4日
- (2) 構成人数：36人
- (3) 活動拠点：千葉県・首都圏

II 活動目的

当クラブでは、結成以来印旛沼および鹿島川での環境調査を行ってきており、環境調査に関わったことのない会員や一般社会人を招いて印旛沼環境の問題意識を共有しながら調査研究を行ってきた。今年もこれまで同様 ①河川・水質・生物環境、②親水性のある河川環境、③景観的に優れている河川環境、④河川環境・水質に悪影響を及ぼしている状況等について確認し、さらに鹿島川最上流の環境変化に注目して河川環境と印旛沼環境の問題・課題について理解を深めることを目的とした。

III 今年度に計画した事業活動の具体的内容

<調査前>

- (1) 鹿島川に関する文献収集
- (2) 地図上における鹿島川流域の地形・土地利用調査
- (3) 調査機器類の準備

<調査>

- (1) 鹿島川の上流部および印旛沼合流付近の現地調査 (図1)
 - a. 河川・水質・生物環境
 - b. 河川利用・景観調査
 - c. 河川周辺環境・土地利用調査
- (2) 鹿島川最上流部土気調整池の水環境調査
 - a. 現地における住民からの聞き取り
 - b. 水質・景観調査、空撮調査

<調査後>

- (1) データのとりまとめ
- (2) 報告会の発表準備

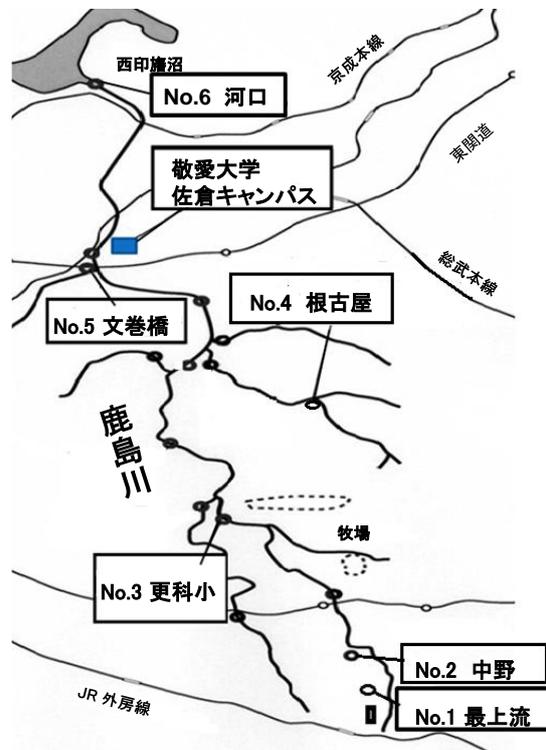


図1 例年調査地域 今回 No.1. 2. 4. を調査

IV 成果および考察

鹿島川の河川・環境等に関する研究

(1) 水質調査からの原因予測と考察

数年前から土気調整池では水草の繁茂が顕著であり、2020年以降に富栄養化が進行した可能性が高い。2025年秋の調査では、アンモニア態窒素と同様にCODが中流の4mg/Lを大きく上回る8mg/Lを示した。底泥の影響もあり溶存酸素量も調整池では4.5mg/Lと、中流の7.0mg/Lより低下している。停滞水域を有するため水質改善は難しく、植物プランクトンや水草の繁茂が水質悪化を招いたと考えられる。放置すれば、鹿島川の水源である調整池は底質の嫌気化が進み、印旛沼のような深刻な水質悪化に至る恐れがある。

(2) 最上流域の環境変化にみる地域問題・問題提起（昨年からの研究）

近年、鹿島川最上流部の河川環境に大きな変化が起こっていることに注目し、昨年から引き続きその要因や歴史的経緯、地域の問題・課題を整理し、さらに最上流の土気調整池の空撮調査を行い実態把握し、今後の環境改善に役立てていく。



写真 土気調整池の水面環境の変化

(水源域（土気調整池）で急激な変化が起こっていた・・・これは水質悪化？)

上流水域（土気調整池）の環境変化が下流地域へどのような影響をもたらすか、現状では実態不明であるが将来下記のような水環境への影響が懸念される。

- ・最上流耕作地（谷津田）の灌漑水利への影響の問題
- ・鹿島川下流一帯、印旛沼への影響が懸念される。

なお、水面の変化の要因について管理者へ問い合わせしているが、まだ回答がない。

(3) 土気調整池の役割

- ・耕作者（土気水利組合）からの聞き取り・・・耕作地の問題、課題
- ・千葉市（土気調整池管理者）の対応

(4) 水源域の開発（土地造成）と調整池整備の歴史的経緯

- ・あすみが丘住宅開発による地域変化と谷津田の消滅
- ・自然の水源涵養の消滅と田圃の水源としての土気調整池設置
- ・水田耕作者の谷津田維持のための懸念と将来展望

V 今後の活動方針

2026年度：鹿島川の河川および地域環境の変化と地域問題について検討する。

2027年度：鹿島川の河川および地域環境の問題について総合的に検討する。

印旛沼流域の湧水調査と水環境の啓発活動

発表者 岩井 久美子

I 団体名 NPO 法人 水環境研究所

- (1) 設立年月日：2004年10月5日
- (2) 構成人数：23名
- (3) 活動拠点：佐倉市を中心とする印旛沼流域

II 活動目的

印旛沼流域には加賀清水を代表として湧水が谷津沿いに点在する。当団体ではこれらの湧水のいくつかを選定して毎年定期的にモニタリングを実施している。これらのデータを整理し印旛沼流域に分布する湧水の紹介を通して、流域内の健全で持続可能な水循環の啓発に寄与することを目的として活動している。

III 今年度に計画した事業活動の具体的内容

- (1) 印旛沼の湧水調査
 - ①調査地点：加賀清水ほか7箇所
 - ②現地測定：pH、電気伝導率、酸化還元電位、流量など6項目
 - ③公定法水質分析：主要イオン8項目、硝酸性窒素、亜硝酸性窒素、アンモニア性窒素
 - ④調査実施日：令和7年11月3日
- (2) リーフレット「印旛沼エリアの湧水マップその2」（改訂版）の作成

IV 成果及び考察

(1) 印旛沼の湧水調査

本年度の湧水調査地点は加賀清水、勝間田の池、沢山の泉、谷当町湧水群（堂谷津）、御手洗井、大仏頂寺の弘法の瀧及び六崎弁天池の7地点である。水質測定値を表1に、公定法分析による硝酸性窒素濃度分布とヘキサダイアグラムを図1に示した。

調査地点の涵養域の主な土地利用は、加賀清水及び六崎弁天池が市街地、沢山の泉が山林及び市街地、御手洗井及び大仏頂寺弘法の瀧は山林、勝間田の池が山林及び畑地、谷当町湧水群（堂谷津）が山林と事業場である。御手洗井と大仏頂寺弘法の瀧は固結したシルト層の崖からの浸み出し、そのほかの5地点は谷頭部から砂層からの湧出である。谷当町湧水群（堂谷津）は里山再生の目的で市民団体により保全されており、そのほかの6地点は祠を祀り故事来歴を有する。

水質では、谷当町湧水群（堂谷津）が塩化物マグネシウム型、そのほかの6地点は重炭酸カルシウム型の特徴がみられる。特に、大仏頂寺弘法の瀧は貝化石を多く含む地層

「上岩橋層」の地質環境がカルシウムイオン及び重炭酸イオンに富む水質を形成していると思われる。そのほか、沢山の泉と大仏頂寺弘法の瀧を除く 5 地点では硝酸性窒素が比較的高濃度で検出されているが、涵養域の土地利用の状況から加賀清水や六崎弁天池は住宅地の生活排水、勝間田の池は畑地の施肥の影響が大きいと考えられる。

表 1 調査結果

地点名	調査日	pH	電気伝導率 (mS/m)	水温 (°C)	酸化還元電位 (mV)	流量 (L/min)	公定法(mg/L)		
							No3-N	No2-N	NH4-N
加賀清水	11月3日	6.3	21.9	21.9	123	4.1	5.9	<0.03	<0.03
勝間田の池	11月3日	7.0	14.5	17.8	189	測定不可	3.8	<0.03	<0.03
沢山の泉	11月3日	6.6	30.1	17.2	82	測定なし	0.52	<0.03	<0.03
大仏頂寺弘法の瀧	11月3日	7.7	64.7	15.9	120	測定不可	0.05	<0.03	<0.03
六崎弁天池	11月3日	7.0	18.1	17.7	116	5.6	3.4	<0.03	<0.03
谷当町湧水群（堂谷津）	11月3日	7.1	43.0	15.4	187	測定なし	2.6	<0.03	<0.03
御手洗井	11月3日	7.7	25.8	15.0	129	8.5	4.9	<0.03	<0.03



図 1 調査地点の硝酸性窒素濃度分布とヘキサダイアグラム

(2) リーフレット「印旛沼エリアの湧水マップその 2」(改訂版)の作成

湧水が環境指標として有効に活用できることから、健全な水循環啓発活動の一環として、湧水モニタリングの成果をリーフレット形式で公表し無料配布している。今年度は、3年前に発行した「印旛沼エリア湧水めぐりその 2」の改訂版の発行しする。

V 今後の活動方針

次年度についても、印旛沼流域の湧水モニタリング調査を継続する。水質では硝酸性窒素に着目し、涵養域の土地利用と窒素供給源の究明に向けて解析を行う。また、過年度に発行したリーフレットその 3 についても最新のデータに更新し改訂版を発行する。

印旛沼マイクロプラスチック調査

発表者 尾北 龍輝 堀田 俊介 五十嵐 文菜 岩本 昂大 木村 悠二

I 団体名 日本大学生産工学部 木村研究室

- (1) 設立年月日：2022年4月1日
- (2) 構成人数：18人
- (3) 活動拠点：西および北印旛沼、日本大学生産工学部(津田沼キャンパス)

II 活動目的

直径 5 mm 以下のマイクロプラスチック (MPs) は水生生物の誤食による消化管の損傷や、海水中の疎水性有機汚染物質が吸着することによる海洋汚染等が懸念されている。従来の MPs 調査は海洋を対象としたものが多く、これらの主要な発生源である河川や湖沼等の陸域環境を調査した報告例は少ない。そこで、河川や海と比較して水の出入りが少なく、流入物質が堆積しやすい湖沼に着目した。調査地点を大学近郊で都市部に位置しており、近年流域人口が増加傾向にある印旛沼とした。本活動では、底質、表層水および水生生物を対象に、MPs の蓄積状況、検出された MPs の劣化年数等を評価した。

III 今年度に計画した事業活動の具体的内容

今年度は、試料の採取地点として、西印旛沼と北印旛沼でそれぞれ中央付近を含めた 5 地点程度と流入、流出河川の付近での採取を予定した。中央部は船を備船し、船上から採水と採泥を実施する。今年度の予定調査地点を図 1 に示す。底質サンプルは含水重量と乾燥重量を測定後、約 10g 取り、ピクノメーターを用いて真密度を測定した。底質サンプル中の MPs は目視で回収した。表層水中の浮遊物は、貝類や有機物を除去するため希塩酸と過酸化水素水で

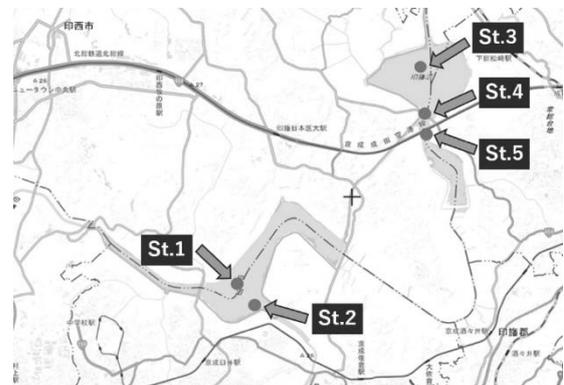


図 1 今年度の予定調査地点

処理し、吸引ろ過により回収した。その後、プラスチックの種類別の特定が可能な FT-IR 分析を行い、底質試料中に含まれる MPs の種類を特定した。特定した MPs は画像解析ソフトを用いて、粒形と数を測定し、地点ごとの特徴と傾向を調査した。また、対候性試験機でポリエチレン (PE (70 mm×140 mm)) の促進対候性試験を行った。その後、FT-IR 分析を行い、カルボニル基由来の吸光度 (1715 cm^{-1}) と PE 主鎖由来の吸光度 (1470 cm^{-1}) の比から、カルボニル指数 (CI) を算出することで、劣化指標を得た。印旛沼で採取した底質試料から検出された MPs (PE) の劣化度年数は劣化指標の CI と比較することで推定した。

IV 成果（あるいは結果）および考察

今年度とこれまで（令和5年度～令和6年度）の調査地点を図2に示す。今年度は沿岸からの進入が難しい沼の中心付近や流入河川の合流地点での調査を実施した。

採取地点 St.7（北印旛沼）における各層の底質試料 1 kg あたりの MPs の検出量を図3に、採取地点 St.8（西印旛沼）における各層の底質試料 1 kg あたりの MPs の検出量を図4に示す。北印旛沼に位置している St.7 は MPs 検出量が少なく、底質試料 1 層（2 cm）当たりの MPs 検出量は約 4.6 個/kg である。一方で、西印旛沼に位置している St.8 の MPs 検出量が多く、底質試料 1 層（2 cm）当たりの MPs 検出量は約 43 個/kg である。St.8 は、新川と鹿島川の流入河川に挟まれる位置であり、流入した MPs が多いことが考えられる。St.7 が位置する北印旛沼では流入河川が西印旛沼とを繋ぐ狭い捷水路しかなく、MPs が北印旛沼に移動しにくいいため、西印旛沼で採取した底質サンプルの方が MPs 検出数が多くなると考えられる。また、底質試料から検出された MPs (PE) の劣化度年数を測定したところ、全て劣化度年数が 1～2 年以内と推定された。紫外線や水流による MPs の劣化は表層で進行するが、底質中では劣化が進行しない可能性が考えられる。



図 2 調査地点

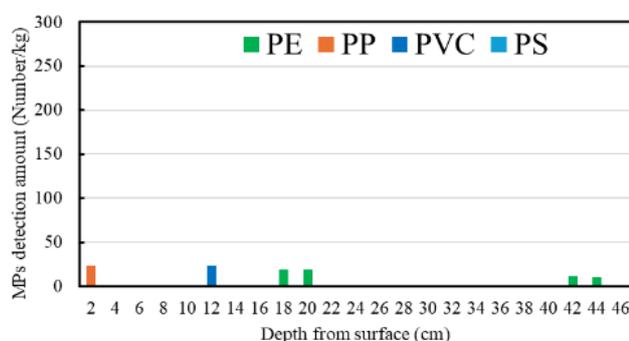


図 3 St.7 における MPs 検出量

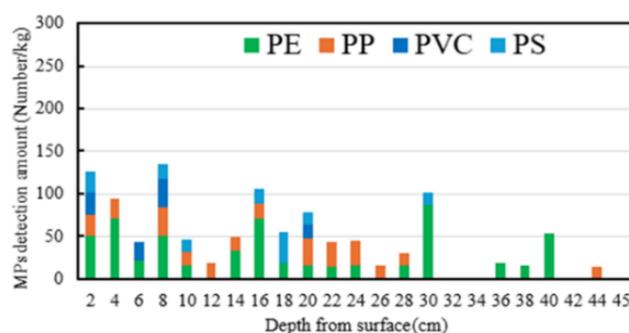


図 4 St.8 における MPs 検出量

V 今後の活動方針

令和5年度より採泥管を用いて柱状サンプルの採取を開始したが、今年度は浚渫の影響が少ない沼の中心部での調査を行った。MPs の堆積状況については、層状サンプルより明らかになってきているため、今後は調査地点を追加し、年代測定も併せて検討を行う。また、表層水については調査が不十分のため、底質調査と併せて実施を予定している。

印旛沼流域に於ける水辺の生きもの調査

里山保全と市民啓発活動

発表者 任海 正衛

I 団体名 NPO 法人 四街道メダカの会

- (1) 設立年月日：2000年3月18日
- (2) 構成人数：90名
- (3) 活動拠点：栗山・たろやまの郷、成山(たかおの杜)・メダカ亭周辺、市内河川(旭川、成山川、小名木川、並木川、上手繰川、鹿島川)、山梨メダカ池、たかおの杜・メダカ田んぼ、四街道市における啓発活動

II 活動目的

設立より実施してきた印旛沼流域の市内河川や調整池の生物と水質の調査、里山自然の保全等を多くの市民に呼び掛けて継続して実施する。また、めだか新聞の発行、ホームページ等により、生物多様性についての市民への啓発を行い、自然の大切さ素晴らしさを発信する。なお、講演会も予定します。

III 今年度に計画した事業活動の具体的内容

- 〈保全活動〉たろやまの郷で月2回実施。市内3か所のビオトープの保全(随時)。クマガイソウ自生地保全(随時)。
- 〈調査活動〉市民参加の河川調査、を毎月実施。
- 〈啓発活動〉めだか新聞発行(隔月、800部)、HP(定期的に更新)。多様性が全国でトップクラスのクマガイソウ群落見学会、講演会開催(100名規模)。今年度は新たに子どもたちが生きものを育てるチャレンジ活動を実施。

IV 成果(あるいは結果)および考察

〈保全活動〉たろやまの郷の谷津を中心とした保全に努めた。多くの市民が保全に参加できるようにみどりの会と称し、谷津の保全と自然と親しむ機会を提供した。当会のメンバーが中心となり、田んぼの会を組織、年間を通した稲作体験も行った。無農薬の有機の田んぼは里山の生物多様性を保証する上で重要な役割を果たすとともに、市民が散策等、自然と親しむ楽しいフィールドとなっている。谷津周辺の保全により、ホタルの個体数は増加、四街道固有のメダカも保全されている。一方、駆除の努力もむなしくウシガエルが増加、アライグマ等特定外来種が増えている。みどりの会は月2回開催、4月から15回、延べ149名が参加した。「たろやまの郷の生き物調査報告書、第6集」がたろやま会から6月に出された。

山梨メダカ池、たかおの杜メダカ田んぼ、総合公園下トラスト田んぼの保全も行った。後者 2 か所は保全がされたが、山梨メダカ池は水が不足、メダカの繁殖が出来ず、地元小学校のメダカ学習も中止になった。四街道市は、この付近を環境保全地区に指定しており、市と協議してそれにふさわしくなるように取り組みを強めたい。



多様性豊かなクマガイソウ群落は、周辺環境の変化の中で花の数が減少気味だが、維持のために 12 月 410 本のモウソウチクの間伐を行った。35a にモウソウチクは約 1500 本と、ほぼ適正の明るさになった。

〈調査活動〉 市内河川等での生きもの調査は、多くの子どもたちも参加し、9 回実施され、順調に調査が行われた。なお、二十数年間のあいだ毎年行われている調査をまとめた冊子を昨年 3 月に完成させた。ここ数年人手不足で出来なかった水質の検査が復活した。

たかおの杜の調整池を中心とした生きもの調査は、中心となる方が闘病中のため、1 回しかおこなえなかった。しかし、会員の個人活動で、水鳥の調査が行なわれており、水鳥にとっては貴重な生息地になっていることが明らかになった。違法に投入されたカダヤシの増加、史抽水植物の繁茂により開かれた水面の減少が課題だ。

〈啓発活動〉 河川における生きもの調査、たろやまの郷のイベントなどの行事に多くの市民が参加した。生きもの調査（6 回延べ 114 名参加）、田植え（26 名）・稲刈り（60 名）、クマガイソウ観察会（3 日間、146 名参加）などを通して自然の素晴らしさを知ってもらった。



なお、今年から若い親とその子どもたちが参加できるように「トンボチャレンジ」事業を始めた。小学校のプールでのヤゴ救出作戦で採集したヤゴを譲り受け、子どもたちに配り、羽化まで飼育観察する取り組みだ。

学校との連携では、山梨小学校で小名木川学習、プールからのヤゴ救出作戦を実施したが、メダカ学習はメダカ池の水不足で実施できなかった。

また、めだか新聞、ホームページ、Facebook を使い生物多様性など自然についての啓発を行った。めだか新聞は JR の駅にも置くようになり好評だ。



第 18 回講演会は 2 月 22 日に予定、トンボ研究家の喜多英人氏の「空飛ぶ小さなヒーロー！ トンボの魅力～トンボの目は宝石より美しい～」を 100 名規模で予定している。昨年は 2 月 2 日に、クマガイソウに関する講演会を佐倉花の里プロジェクトと共催で開催、140 名が参加した。

V 今後の活動方針

物多様性を考える上で、引き続き今までの活動は確実に継続する。外来種、特に特定外来種対策が緊急の課題として位置付ける。

活動が継続するために若い人の参加しやすいように行事を組み立てる。

里山整備や自然観察会等を通じた里山保全・保護活動

発表者 押田 正雄 山家 公夫

I 団体名 里山の会 ECOMO

- (1) 設立年月日：2003年6月21日
- (2) 構成人数：正会員16人、準会員14人、賛助会員9人
- (3) 活動拠点：滝まなびの森、本埜小学校周辺

II 活動目的

活動の目的は、里山保全と里山に親しむ活動を通して、広く自然保護の精神を広め、かけがえのない里山等の身近な自然を次世代に引き継ぐことにある。あわせて、本会の活動が地域の人々の心豊かで健康的な生活に寄与することを願っている。

III 今年度に計画した事業活動の具体的内容

- (1) 里山保全の活動（まなびの森、ホタル観察地）
 - ①まなびの森の下草刈り、倒木等の撤去、ウッドデッキの撤去
4月5日、11月22日、12月6日 20人
予定：1月10日、2月7日（チップ作業）、27日
 - ②ホタル観察地の清掃、観察路の整備
5月5日、6月29日、7月7日、10月7、14日、19日、21日
11月30日、12月21日 42人
予定：1月18日、25日、2月15日
- (2) 自然観察会 ※本埜公民館との共催行事
 - ① 春の里山観察会 4月5日（土） 7人
 - ② ホタル観察会 7月5日（土）※ 28人
 - ③ 蝶とトンボの観察会 7月12日（土）※ 11人
 - ④ キノコ観察会 10月4日（土） 5人
 - ⑤ 秋の里山観察会 11月8日（土）※ 22人
- (3) 学習会
 - ① タケノコ狩りと山菜調理等 5月31日（土） 9人
 - ② ミニ草履づくり 9月20日（土） 14人
 - ③ わら細工学習会（亀づくり） 予定：1月17日（土）
 - ③ ホダギづくり（ヒラタケ菌打ち） 予定：2月14日（土）
- (4) 生物調査
 - ① 秋の鳴く虫観察・調査（クツワムシ等） 9月21日（土） 5人
 - ② 二ホンアカガエルの卵塊調査 予定：2月中旬から3月中旬（有志調査）
- (5) その他
 - ① 小学校の里山学習に協力（里山学習講師や協力員 5人）
本埜小学校3、4年生、（5月1日、10月28日）・・・観察会
5年生（5月8日、7月1日、9月8日）・・・・・・稲作体験
 - ② 社会福祉協議会本埜支部の里山ウォーキング時、講師として協力 6月19日

IV 結果および考察

(1) 里山保全の活動

- ・ ウッドデッキが老朽化したので撤去。
- ・ 整備活動の継続でヤマユリ、フデリンドウ、キンランが安定的に生育している。
- ・ 散歩やジョギングをする人など里山を身近に感じる人が増えてきている。
- ・ 小・中学生や他団体が里山を学習の場所として活用している。
- ・ 整備する人数が限られている。高齢化も進んでいる。
- ・ ナラ枯れや老木の倒木が多く発生しており、撤去作業を継続中。

(2) 自然観察会

- ・ 講師のお陰で参加者は里山自然を五感で触れ楽しむことができている。
- ・ 観察会の講師を務める会員が出てきた。更に講師を増やしていきたい。
- ・ 参加者を増やすことが課題、身近な自然を愛し大事にする人を増やしたい。
- ・ 社会福祉協議会の活動支援（里山自然の保護に繋がる啓発）。

(3) 学習会

- ・ タケノコ狩りと調理実習を継続実施、男の調理機会は親睦の機会として有益。
- ・ キノコ栽培（昨年度）はナメコとシイタケであった。ナメコは一部収穫できた。
- ・ ミニ草履づくり及び藁細工の亀づくりは、講師の丁寧な指導で良い作品ができ大好評であった。会員2名が指導補助できるようになった。

(4) 生物調査

- ・ クツワムシは継続調査したが生息が未確認、気候変動か環境変化なのか。
- ・ アカガエルの卵塊調査は、モニタリング1000（環境省）として継続調査する。

(5) その他

- ・ ホタル発生地（耕作放棄地）が小学生の里山学習に継続活用されている。
- ・ ホタル発生地は、イノシシ生息場所になりそうなので頻繁に除草作業を実施した。

V 今後の活動方針

(1) 里山保全の活動

- ・ 倒木や枯れ枝の撤去等、多くの仲間を募って、継続して重点作業とする。
- ・ 竜腹寺地区の人々もホタル観察地の整備を実施、今後も地元の方々と連携して活動してゆく。

(2) 自然観察会

- ・ 五感で里山自然を感じ取れるように更に工夫する。
- ・ 自然に親しむ遊びを取り入れ、観察会の魅力を増やすようにする。
- ・ 会員も講師になれるように研鑽を継続する。

(3) 学習会

- ・ 木の実を使った工作やリース作り等、里山自然の魅力を活かす。
- ・ 里山整備作業時に、刈払い機やチェーンソー等の実習機会を設ける。

(4) その他

- ・ 印西市立本埜小児童に対する自然観察会や稲作体験に継続支援する。
- ・ 秋の鳴く虫（クツワムシ）調査、アカガエル卵塊調査の継続実施。
- ・ まなびの森及びホタル観察場所で親睦会（里山整備作業時のティータイム等）を開催する。

鯉のぼりと散策路保全事業

発表者 藤本 千恵子

I 団体名 二重川に親しむ会

- (1) 設立年月日：2007年8月1日
- (2) 構成人数：60名
- (3) 活動拠点：船橋市・印旛沼流域一級河川「二重川」

II 活動目的

2001年船橋市により二重川改修工事が始まり、多自然型の護岸の完成後は河川管理用道路を散策路として住民が利用している。

「ふるさとの憩いの川に」を掲げ、散策路のゴミ拾い、草刈のほか「身近な水環境の全国一斉調査」に参加し、水質にも関心を寄せてもらうようにしている。

また、地域とのコラボレーションとして2012年から八木が谷北小学校に鯉のぼりを提供、彩りをしてもらい、4月末から5月半ばまで、通学路に当たる高野橋・八木が谷橋に掲揚する。地域の風物詩となっている。



八木が谷橋に掲げたこいのぼり



今年の課題「生き物図鑑作成」刈るには惜しい風情



III 今年度の事業活動内容

5月からの猛暑で、散策路の草刈りは困難を極めた。清掃参加者も減少気味となる。掲示板を充実させ活動内容紹介、新規会員の増加に努めた。また八木が谷橋モニュメント（地域の治水の歴史）のシンプルな案内板を新たに設けた。

6月には千葉県生物多様性センターによる「カミツキガメ」生息調査が行われた。取り付けられた網を数か所確認して調査の実施を知る。



生物多様性センターによる捕獲網の設置 「さわるな！きけん！」の表示 エサは魚の頭
地域にとっては 重要な情報 会報と掲示板で紹介した

IV 成果および考察

二重川に魅力を感じてもらうため企画した「二重川生き物図鑑」は生き物と人の活動時間にずれがあり、姿をとらえるのは大変難しい。担当は生き物との出会いを多く持てるよう早朝散歩を心がけた。生き物を多数確認、詳しい生態を知ることにもなった。

またある機関の「利根川近代改修 150 周年」の記念研修で「二重川に親しむ会」の活動～河川の距離標保全と水質検査～が高い評価を受けた。過去に助成いただいた「二重川マップ」「二重川ガイドブック」「二重川おさんぽ図鑑」が役に立った。

なお、日ごろの散策路保全活動に対し、令和 7 年 6 月 7 日 第 36 回「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣表彰を受賞した。



八木が谷橋 水路の歴史モニュメント
新たな標識(左)を設置 二重川を逆流させる

みずとみどり研究会～水環境の全国一斉調査
～ 地域の そして「一時代」のモニュメント ～

V 今後の活動方針

会員の高齢化、草刈り機など機材の老朽化のほか、問題は多いが、活動にすることが課題で、地域力と人材が求められる。新たな出会いもあり、期待は大きい。

カヤックを利用した印旛沼・鹿島川環境美化活動報告

発表者 野口 理津子

I 団体名 佐倉市カヌー協会

- (1) 設立年月日：1995年2月19日
- (2) 構成人数：77名（うちジュニア部員 28名）
- (3) 活動拠点：佐倉市カヌー協会練習場（千葉県佐倉市萩山新田）

II 活動目的

2022年度および2023年度の助成事業による印旛沼クリーン活動を継続することを第一の目的として実施しました。

- (1) 活動の継続：これまでのクリーン活動を継続し、印旛沼の良好な水環境を維持すること。
- (2) 来訪者への配慮：「ごちゃまぜカヌー大会」等のイベントで訪れる多様な来訪者に、水面に近いカヤックならではの視点でも心地よい環境（臭いやゴミの改善）を提供し、良い思い出を持ち帰ってもらうこと。
- (3) 次世代の教育と啓発：多くのジュニア（小中学生）会員がゴミ問題を認識する機会とするとともに、ふるさと広場付近での活動を通じて観光客へ意識づけを行うこと。

III 今年度の事業活動内容

佐倉市カヌー協会艇庫に集合し、カヤックを用いて印旛沼・鹿島川の水面、水草の上、および葦の間に紛れているゴミを回収しました。また、今年度は釣り人との合同ゴミ拾いイベントを開催し、印旛沼に関わる多様な主体と連携して活動しました。

■ 令和7年度 活動実績

活動日		活動場所	回収したゴミの量・内訳
2025/6/28		鹿島川（マルシェ対岸）	10L 可燃ゴミ×5 袋
2025/8/9		鹿島川（マルシェ対岸）	10L 可燃ゴミ×43 袋、カン×5 袋、ビン×2 袋、粗大ゴミ（ブルーシート、農業用ホース等）
2025/9/21		鹿島川（マルシェ対岸）	10L 可燃ゴミ×16 袋、カン×2 袋、ビン×1 袋、粗大ゴミ（発泡スチロール等）
2025/10/12		ふるさと広場周辺	10L 可燃ゴミ×9 袋、カン×2 袋、ビン×1 袋、粗大ゴミ（除湿器等）

IV 成果及び考察

- (1) 分別の判断： ビンやペットボトルの中に有害物質が混入している懸念があり、中身の処理方法について判断に苦慮しました。
- (2) 微細ゴミへの対応： マイクロプラスチック等の拾いきれない細かいゴミの回収には、さらなる工夫が必要であると感じました。
- (3) 機材の選定： カヤックに比べ、積載量の多いSUP（スタンドアップパドルボード）の活用が有効である可能性を見出しました。

V 今後の活動方針

ゴミのない印旛沼を理想に掲げ、今後もクリーン活動を継続します。

- (1) 重点清掃エリアの設定： 4回の活動を通じてゴミが集中していた「マルシェかしま対岸」について、翌年度は重点的に清掃活動を行う予定です。
- (2) SUPの活用： ゴミの回収効率を向上させるため、今後の活動においてSUPの導入を視野に入れて検討します

編集・発行 公益財団法人 印旛沼環境基金

【令和7年度助成事業成果報告会要旨集】

令和8年 1 月30日発行

〒285-8533 千葉県佐倉市宮小路町12番地

Tel:043-485-0397 Fax:043-486-5116

<https://www.i-kouiki.jp/imbanuma/>

《本助成事業は、(株)千葉銀行及び(一社)千葉県環境保全
センターからの寄附金の一部が充てられています》